

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者が、その人らしく安心できる環境作り、地域に開かれたホーム」という理念の基に地域と共に利用者の暮らしを支えていくことを目指している。また、日々理念を念頭におき、介護を行っていくよう心がけている。	管理者及び職員は職員会議や日々のミーティングなど折に触れ、理念を振り返り、確認し合う機会を設けている。職員は自分の言葉で理念を語ることが出来、日々のサービスで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新年会の会合への参加	入居者の殆どが地元の方である。ホームの催し事について地域にお知らせしたり、ホーム手作りのおやつを隣近所に配っている。周辺住民からも時折、野菜や果物などのおすそ分けを頂いている。開設から丸二年が経ち、地域との交流の輪が徐々に広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お楽しみ会では、ご近所の方にお知らせし認知症の方との交流を深めていけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、市の担当者や地域の方、利用者のご家族の方に現状の報告をしている。	市の福祉課職員、住民代表(区長、民生委員)、家族代表らが出席し、毎回、ホームの活動報告、参加者との質疑応答、意見交換を行なっている。意見要望は運営に活かしている。	定期的に会議は開催されているが、今後は2カ月に一度開催されることを望みます。議題によっては老人会や婦人会、地区消防団の代表者等、広範囲からの特別参加者をお願いし更なるサービス向上に活かしていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外では制度的な面で指導を頂いたりしている。	市の担当者には催し物の案内や資料を届けながら、分からないことや不明なことを聞いたり相談している。毎回、親身になって相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なわないことを、職員全員で認識している。	職員は身体拘束の具体的な行為を認識しており拘束のないケアの実践に取り組んでいる。現在も拘束の必要な入居者はいない。やむを得ない場合については本人家族に説明し、出来る限り速やかな解除に努めるなどの策が講じられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議で取り上げ話し合いを行なっている。今後も理解を深め職員全員で虐待が起きない、起こさないよう細心の注意を払っている。		

グループホームよっころしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、制度を使っている利用者がいる。必要な方に活用できるよう職員は理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については、ご本人・ご家族に事前に説明し不安や質問等を受け付け、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族の意見が聞けるよう意見箱を設置している。個々で管理者がご本人・ご家族と話す場を作り施設改善の為に意見を聞いている。また運営推進会議では利用者のご家族に交代で出席して頂き意見交換している。	契約時には苦情や相談場所を説明している。入居者や家族が何でも気軽に話してもらえるようふれあう時間を大切にしている。家族等の来訪はほぼ月に一回以上あり、その際に生活の様子を報告している。表出された意見・要望等は運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議を行ない意見を聞くようにしている。入所する利用者を決定する際にも職員の意見を聞き皆で話し合っている。	毎月の全体会議では大小に関わらず運営のこと、家族や入居者からの意見・要望などを職員全員で検討している。緊急性のある要件に関してはその日の勤務者で話し合っ決めて、非番の他の職員への周知を徹底している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行ない、常に向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修等に参加できるように申し込み書を回覧するようにしている。研修に参加した場合には、全体会議で研修内容を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ、そのような取り組みが出来ていない。		

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しの出来る方には、話しを傾聴することを大切にし、出来ない方にはその人と向き合い不安や困っている事について把握できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内を案内する等して、ご家族がリラックスした中で話しを聴けるようにしている。また聴取にならないよう聴く姿勢を大事に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや、不安な事に対して支援の提案・相談を繰り返していく中で必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状態によりサービスを提供する事が大半の中、スタッフみんなで介護する側・される側をつくらないように努めている。利用者との会話で教えられたり、励まされたりすることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から頂く情報を大切にし、またこちら側からも利用者の状態をお伝えし、一方通行にならないように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の御希望・ご協力にて外泊・外出は可能。	入居者の入居前の習慣や大切にしていたことを家族らから聴取している。入居者からの希望や意向を直接伺いながらの支援は難しい状況ではあるが、家族からの便りが届いたり、電話でやり取りしたり、知人の訪問を受けるなど入居前の関係性を継続している。	既に取り組んではいるが、おたのしみ会を更に発展させ、家族同志が話し合えるような場を設定されることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	7名の利用者同士の関係は、それぞれ利用者同士で築いていくもので、職員は、それを十分把握していくよう心がけている。認知症のレベルによりコミュニケーションが困難な場合、孤立しないよう配慮している。		

グループホームよっころしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の悪化などで医療機関に入院され契約終了になった場合には関係性はなくなっている。しかし、ご家族等が個別に相談にきた場合には、その都度対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めている。言葉や表情などから、その真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	自分の意志を言葉として表せる方が少ない中、職員は日々積極的に話しかけながら、入居者の仕草や表情から一人ひとりの思いや気持ちを把握すべく一生懸命取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の調査・見学・家族の面会時など関係者よりお話を聞き、情報の把握をしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、本人の全体像を把握するよう努めている。出来ない面より出来ることを伸ばしていけるように全職員取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の担当者会議でケアの課題を話し合い、より良いケアを提供できるよう努めている。また、状態が変化した際には、その都度見直しを行っている。	入居者ごとのプラン担当職員が本人や家族の意向を基に計画作成担当者と相談しながら自立した生活を送るための介護計画を作成している。全職員で定期的に評価し、見直しも行なわれている。本人の状態に変化があれば実状に即した内容に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護・看護記録を作成し全職員が情報を共有すると共に変化があった場合、随時カンファレンスを開いていくよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者には看護師を中心となり医療連携体制を整えており、看取りも行っている。また通院や送迎等必要な支援も行なっている。		

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	3カ月に1回、運営推進会議を行っており、区長・民生委員の方にも入ってもらい協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までの医療機関への継続の希望がある場合は受診にお連れし、また利用者の健康状態に合わせて総合病院に受診する(家族の許可を得る)更に入居時には協力医療機関を必ず説明している。	入居時に協力医療機関の医師に変更するケースもあるが、かかりつけ医は本人や家族の意向に沿っている。毎月の定期健診は往診や通院でかかりつけ医の診察を受けている。受診に関しては家族に代わり職員が付添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を1名確保し医療連携体制を整えている。日常の健康管理・服薬管理・医療機関との連絡体制も整えている。また職員の医療・健康管理・緊急時の判断力の向上に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合には総合病院の病棟看護師と利用者の情報提供及び交換を行なっている。また退院後の生活の準備を整え、当施設での生活が継続できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアカンファレンス及び同意書・医師確認書等を記入し早い段階から家族に説明し、並行して医師からも説明を受ける。また看取りケアを行う際、意志・ご家族と職員とでカンファレンスを行なう。契約時延命治療は行わず看取りを行う説明をする。	看取りケア指針や急変時及び延命処置についての説明書があり、同意をいただくようになっている。協力医療機関医師により24時間相談が可能であり、職員に看護師がいることもあり、家族と共に看取りを実践している。つい最近も入居者と共にお一人の方をお見送りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の職員応援体制なども整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制については、自治会でお願ひしたり、運営推進会議で協力を呼びかけている。	年一回、消防署の指導の下、防災訓練を行い、避難や消火器の取り扱い、通報訓練などを同時に行なっている。有事の際の災害時派遣協力体制が近くの老健施設と結ばれている。	防災訓練の他に、あらゆる火元を想定した避難訓練や抜き打ちの連絡網確認訓練など、自主ミニ訓練を加えていただきたい。また、地区の防災訓練にも参加されることを望みます。

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして本人を傷つけてしまわないように目立たず、さりげない言葉かけや対応に配慮する。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけを職員皆でしないよう徹底している。	日によって波があることを十分に理解した上で意思表示が難しそうな入居者にも丁寧に声かけしている。入居者一人ひとりがその人らしく誇りを持って心地よく暮らし続けられるよう個人を尊重した対応、言葉かけが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者と過ごす時間を通して利用者に合わせて声掛けをし、利用者の希望・関心・嗜好を見極め、それを基に日常のなかで本人が選びやすい場面をつくるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日・その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個性のある支援を行なっていくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体で身だしなみを整えられるよう職員はお膳立てをしたり、不十分なところや乱れをさりげなく直している。本人の好みや意向を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるようにしている。旬の食材や新鮮な物を採り入れている。	献立は食べたい物や好きな物を入居者に聞きながら決めている。入居者の状態に合わせた食形態で食事が提供されている。外食に出掛けることもある。職員の声かけや対応に笑顔が絶えず、時折笑い声も交じる和やかな食事の時間であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事の摂取量の確認と記録、食べ方の変化の記録と情報の共有・食事形態の工夫。毎食時・おやつじの各々の水分摂取量の確認と記録を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。本人のレベル低下により、全介助や半介助している。夕食後には義歯を洗浄剤につけて消毒している。ご自分で出来る方にはやっていたいしている。		

グループホームよっころしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立されている方はもちろんだが、中にはオムツ使用の方でもトイレ誘導をし排泄して頂けるよう支援している。	排泄チェック表を活かし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援が行なわれている。共有トイレではあるが男性入居者の希望で男女別のトイレが絵文字で表示されていた。ポータブルトイレの利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無を確認し本人の排便コントロールの状況に合わせて下剤の服用あり。また食事摂取量と水分摂取量の観察をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に沿った入浴が出来るよう健康状態や事故防止に気をつけながら、出来るだけゆっくり入浴できるよう見守っている。	入浴日や時間は決まっているが夏場は特に入居者の希望に沿った支援を行なっている。入居者が安心して気分よく入浴できるように状態に応じ2人介助が行なわれている。現在、入浴を拒否する人はいない。入浴時間帯には入浴専従の職員が配置がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを作り、一人ひとりの体調や希望に考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援する。また寝つけない・不安な気持ちがあるときには、話をしたり、添い寝をしたりする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は看護ファイルにまとめてあり、いつでも全職員が確認する事ができる。常薬や薬の追加等は看護師より振り分けられ、誤薬のないように与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人ひとりの出来る事を見出し、お願い出来るような仕事を頼み感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・本人の体調や気分によって近所への散歩や車で外食に出かけている。	日々、外気に触れる機会をつくっている。ホームの周辺を散歩したり、玄関先で北アルプスの雄姿や田園風景を見ながら日なたぼっこやおしゃべりをしている。時には入居者の希望でドライブに出かけ、車椅子使用の入居者も一緒に楽しんでいる。	

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金をお預かりし、事業所が管理している。またお小遣い帳にて収支の管理も行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙を書ける方には希望に沿えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所とホールがカウンターのみで仕切られているので、調理している姿が見えたり、匂いを感じることができる。	食堂兼居間の中央には民家で使われていた大黒柱がある。畳のコーナーには大きめのコタツがあるが、現在は入居者の状態から使う方はいない。ペットの犬がぬいぐるみのように寝そべっていた。入居者は日中の多くの時間をこの食堂兼居間で職員と一緒に過ごしている。床暖房で足元が暖かく快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーがあり、小さな座卓があり、冬場は炬燵が置かれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に利用者の使い慣れた馴染みのあるものを持ってきてもらうようお話している。布団もご本人の物を持ち込んで頂いている。	居室も床暖房であり、万が一のために煙探知器も付いている。家族手作りの壁掛けを飾るなど入居者一人ひとりのための居室作りがされている。また、本人の入居生活のアルバムが作成されており、家族などが訪問したときには本人と一緒にアルバムを開いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでホール内・トイレ内には手すりがあり安全な環境の中で「できることを」やって頂いてる。		